

日本脳炎の定期予防接種の実施について

【お願い】

ワクチンの製造上の不具合により、供給量が停止しているため、予約者数の制限をしております。

定期接種ができる期間が迫ってきている方のみ予約としておりますので、子育て健康課または地域住民課までご相談ください。

北海道では平成28年度から定期予防接種として、日本脳炎予防接種を実施することになったことから、予防接種実施規則の附則に基づき、特例措置（制度終了：令和6年末まで）が設けられています。

下記のとおり、生年月日により接種できる期間が異なります。

【定期対象者】

①平成21年10月2日以降に生まれたお子さん

1期(3回) 年齢：3歳以上7歳6か月まで

・標準的な接種年齢

3歳～4歳までに1回目 → 6日～28日あけて → 2回目 → 概ね1年あけて → 3回目

2期(1回) 年齢上限：13歳まで

・標準的な接種年齢 9歳～10歳

※1期3回が終了していない場合も、9歳～13歳に2期の接種ができます。

②平成19年4月2日～平成21年10月1日までに生まれたお子さん（特例措置対象者）

平成22年3月31日までに1期3回を受けていない方は不足分を接種できます。

対象年齢は、7歳6か月までの方及び9歳以上13歳未満の方

1期(3回) 接種間隔：1回目 → 6日以上あけて → 2回目 → 6か月以上あけて → 3回目

※2期について（1回） 9歳以上13歳未満まで

制度上、6日以上の間隔をあければ接種できますが、3回目から概ね5年～10年で接種することで抗体が維持できるので、13歳までにできるだけ期間を空けて接種するか、任意で接種することとなります。

③平成19年4月1日以前に生まれた方（特例措置対象者）

20歳に達するまでの間に、1期、2期の接種ができます。

1期(3回) 接種間隔：1回 → 6日以上あけて → 2回目 → 6か月以上あけて → 3回目

2期(1回) 接種間隔：3回目から概ね5年～10年あけて1回

※接種を1回でも受けている場合は、残りの回数を6日以上あけて接種します。

制度上、6日以上の間隔をあければ接種できますが、3回目から概ね5年～10年で接種することで抗体が維持できます。

※上記①～③は、いずれも過去に規定回数の予防接種を受けた方は対象になりません。

●料金は無料です。



【お申し込み方法・お問い合わせ先】

●日高地区にお住まいの方

事前に日高総合支所地域住民課へお申し込みください。

実施日程 毎週水曜日 午後1時～午後1時15分 日高国保診療所

【お申し込み・お問い合わせ先】日高総合支所 地域住民課 健康・介護グループ 電話 01457-6-3173

●門別地区にお住まいの方

次の日程で実施しますので、事前に日高町役場 子育て健康課へお申し込みください。

門別地区 令和3年度 実施日程

ワクチン供給が停止しているため、日程を変更しております。

【お申し込み・お問い合わせ先】日高町役場 子育て健康課 電話 01456-2-6571

月	日		受付時間	会場
令和3年5月	19日(水)	27日(木)	午後3時30分 ～ 午後4時00分	門別国保病院
" 6月	9日(水)	23日(水)		
" 7月	7日(水)			
" 8月	4日(水)			
" 9月	1日(水)			
" 10月	6日(水)			
" 11月	10日(水)			
" 12月	8日(水)	29日(水)		
令和4年1月	12日(水)	27日(木)		
" 2月	9日(水)	24日(木)		
" 3月	16日(水)	24日(木)		

【日本脳炎について】

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスの感染によっておこる中枢神経(脳や脊髄など)の疾患。症状が現れずに経過する場合がほとんどです。症状が出る場合には、6～16日間の潜伏期間の後に、数日間の高熱、頭痛、おう吐などで発病し、引き続き急激に、意識障害、けいれんなどの脳の障害が起こります。

ウイルス感染者1,000人に1人が発症し、死亡率は15～20%で半数が後遺症を残します。

東南アジア、中国、インドなどでは毎年数万人の患者が発生しています。

豚からの感染が多いとされ、日本では西日本で患者が多い状況です。コガタアカイエカという蚊により、豚などから、人間に感染しますが、北海道にはコガタアカイエカが生息しないため、日本脳炎患者はおりませんが、生息地への渡航や就学、就職の可能性を考えられ、平成28年から北海道でも接種が開始されました。

【日本脳炎ワクチンの副反応について】

副反応について、90か月未満の小児を対象としたデータでは、接種を受けた1～2割に発熱、咳、鼻水、注射部位の紅斑等が見られ、ほとんどが接種3日後までに見られたとされています。

まれに、アナフィラキシーショック、ADEM(急性散在性脳脊髄炎)、脳炎・脳症、けいれん、血小板減少性紫斑病などの重大な副反応が見られることがあります。